1.　評価結果概要表

作成日　平成21年2月3日

【評価実施概要】

事業所番号	0370200354
法人名	医療法人　孝仁会
事業所名	グループホーム　すまいる2号館
所在地	岩手県宮古市崎鍬ヶ崎9－39－70 （電　話）0193－65－1211

評価機関名	財団法人　岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通り3丁目19－1		
訪問調査日	平成20年11月28日	評価確定日	平成21年2月3日

【情報提供票より】（ 20 年 11 月 1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・(平成) 16 年 7 月 1 日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人
職員数	8 人	常勤 7 人，非常勤 1 人，常勤換算 7.3 人

（2）建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 1 階 ～ 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	25,000 円		その他の経費（月額）	円
敷　金	有（ 円）		(無)	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ 円） (無)		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

（4）利用者の概要（ 11月 1 日現在）

利用者人数		9 名	男性 1 名	女性	8 名
要介護1		1 名	要介護2	3	名
要介護3		4 名	要介護4	1	名
要介護5		－ 名	要支援2	－	名
年齢	平均	84.0 歳	最低 76 歳	最高	93 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	宮古第一病院　、　伊藤歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

眼下に雄大な太平洋を望むこの施設は、新興住宅地の中にあり、日中は仕事を持つ若い世帯が多く、高齢者も少なく地域とのコミュニケーションが、なかなか取りにくいことが課題である。この地域には同法人の複数の施設があり、お互いに交流を図りながら、地域に溶け込む取り組みを真剣に考えている事業所である。ホームの中は、明るくきれいで、入居者と職員の関係は暖かくゆったりとしていて、笑顔が多く見られ、笑い声も聞こえてくる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4） 運営推進会議に対する取り組み等、管理者、職員は自己評価及び外部評価の意義をよく理解して、改善課題として取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 全職員が集まれる夜間帯を利用して、評価の意義、目的の理解に努め、サービスの質の確保に対する姿勢が感じられる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6） 会議では、事業所から現在の利用者の様子、行事の実施内容とそのときの利用者の様子など具体的な内容まで報告されている。また最近では、仙台の中学生の職場体験実習や大学の実習、地元の崎山中学生の職場体験実習なども受け入れていることなどの報告もされ、討議されている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8） 苦情受付窓口や「気付き箱」の設置など、家族の意見や苦情を気軽に頂けるように事あるごとに伝えているが、いまだに意見や苦情はない。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 今年度は、自治会には未加入となってしまったが、来年度は再加入をし、地域の行事等に参加してグループホームが住民の一人として認知されるよう努めていく考えである。

2.　評価結果（詳細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時から地域を意識した独自の理念、「和」、「話」、「輪」を柱にして、利用者が地域社会の一員として、自分らしくし自信を持って生活出来るような支援を目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は常に確認出来るように玄関ホール、食堂のよく見える場所に掲示されてある。必要があれば理念の変更があってもよいと考えている。日々、職員同士で声を掛け合いながら、ケアに取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年までは自治会にも加入していたが、今年は法人の手違いで未加入の状態である。来年度は再加入を予定している。ホームの広報もご近所25～26軒に配布して、当ホームを理解して頂くよう努めている。ホームの行事案内は、自治会長に持参してお願いをしている。地区の崎山中学校の職場体験も引き受けたり、同校を利用者が訪問したり交流を持っている。	○	自治会に加入して地域との繋がりをなお一層強くして、災害等が起きた場合もご近所からの応援もいただける関係が出来ることを期待したい。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価に向けて、自己評価を年一回実施している。全職員が参加することに意義があると考えられるため、19時以降実施した。評価の意義、目的の理解に努め、日々取組みに活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新鮮な野菜提供の依頼や、地震対応や防災マニュアル作りに非常に貴重な助言をいただけるようになってきている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	宮古市介護保険課とのつながりを大切にしている。成年後見人制度について指導を受け、現在2名が制度を利用している。広報、行事案内等は役所を訪問して直接渡し、職員との顔つなぎの目的もあり、実施している。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	生活の様子や受診の結果、ホームからの連絡事項を記載したホーム便り（ご本人の写真入）を、毎月家族に郵送している。その際、請求書、小遣い帳のコピーも同封している。定期通院は1名を除きホームで対応している。変化のある時や、本人からの伝言のあるときはその都度、電話で対応している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「気付き箱」への投書はないが、本人や家族からは意見や想いの、きき出しをしている。苦情の受付は外部にもあることを知らせておくことが、家族にとっては安心に繋がる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人の方針で異動は避け難いが、グループホームの異動については最小限にとどめている。（他部署からの異動の場合は）異動の1ヶ月前からホームに訪問して貰い、顔を覚えてもらいながら、馴染みの関係作りをしている。家族には広報でお知らせしている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の勉強会、ホームの勉強会は月一回あり、参加できないときは資料で学習している。外部研修は一人年間2～3回受ける機会があり、参加者が講師となり共有している。資格受験にも法人は協力的である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内、市内のグループホームとGH協会の活動を通じて情報交換をしている。法人内の4箇所のグループホームと、近隣地域にあるシルバーグループに加盟しているグループホーム1箇所が合同で、来春交換研修の予定がある。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同法人内から移る利用者については、何度も訪問していただき、馴染みの関係を作りながら移っていただいている。その他の方は、担当ケアマネジャーが自宅に伺い、本人、家族との相談はしているが、ホームの見学は1回位で入居に至っている。	○	地域密着型サービスでは、比較的近距離に居住する方が利用され、職員が利用者本位に柔軟な働きかけをするなどの特徴がある。訪問の回数を重ねて、本人、家族共になじみの関係作りが出来て、納得の上で利用することに期待する。
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として尊敬し、生活の達人からいろいろなことを学び、支えあう関係作りに努めている。1日おきの買い出しの同行、食事作りのお手伝い、後片付け、居室のモップ掛け、洗濯物たたみなど役割がある。アセスメントシートにも記入されている。毎日の様子は申し送りノートに詳細に記入されている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	年一回家族アンケートを実施し、本人、家族の希望や意向を把握している。センター方式アセスメントを使用して、ケア計画を立てている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	毎月ケアプランの見直しをし、3ヵ月ごとに内容の評価、プラン立案を職員全員で実施している。プラン作成時には電話にて家族の意見を聞いているが、毎日一緒にいるわけでないのでなかなか意見は出にくい。レベル低下や変化のあるときは、連絡を密にしてこまめに見ていただき、プランに反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化に対しては、こまめに家族への連絡を重ね、職員の話し合いも重ねて介護計画の見直しにつなげている。		安定している利用者の場合でも、常に新鮮な目で本人や、家族の意向や状況を確認すると共に、ケア関係者の新しい情報や気付き、ケアのアイディアを集めて見直しをすることも望まれる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の家族がホームの居室に泊まったり、通院の介助や、体調に合わせてご飯をお粥にしたり、入浴の無理強いをしないなど柔軟な支援に配慮している。	○	利用者と家族の日々変化する状況や重度化していく状態から、要望に応じて必要なとき、必要なサービスを臨機応変かつ柔軟に、職員が馴染みの場所で提供して、本人の暮らしの持続性を守ることが多機能を活かす支援と考えられる。家族だけの希望に対応するのではなく、あくまで本人の要望や意思に沿った対応を期待する。
４．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	大半は宮古第一病院と田老診療所を利用している。利用者に変化のある場合は毎日でも対応すると、担当の医師からの協力を頂いている。通院介助も法人の車で、ホームで実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携加算をとっているが、ターミナルケアに関しては家族からの要望はない。終末期のあり方については家族にもよく分からないのが現状である。職員間での勉強会を重ねて、家族に対して、安心、納得できる説明をしたい。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する、さりげない接し方、穏やかな声がけと笑顔にはとても好感が持てる。プライバシーに関しての勉強会の必要を感じている。	○	利用者の記録類は、ホームの出入り口に近い書庫に収納されているが、施錠がされておらず不安である。個人情報保護のためにも、配慮されることを期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活は、大まかな日課が組まれているが、その日の本人の希望と体調や、天候などを見ながら臨機応変に対応している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聴きながら、献立を決めている。希望により誕生会に、回転ずしを食べに行ったりすることもある。家族からの秋刀魚や野菜の差し入れで、急遽献立変更で対応することもある。調理の手伝いや、テーブルふき、後片付け等、できる範囲のお手伝いはお願いしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴はいつでも対応できるように準備は出来ているが、ほとんどの利用者は毎日午後に入浴している。心臓に持病を持っている方は週2回のシャワー浴を実施している。夜間の入浴希望者は今のところいない。家族と一緒に足湯に出かける人もいる。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	通院の帰りに、買い物をしたり、馴染みの神社に参拝するなどドライブすることもある。希望により、散歩をケアプランに入れている人もいる。新聞や読書をする方も約半数おり、テレビは朝食時から夜9時までつけている。洗濯物たたみ、モップを使って居室清掃など、自分の仕事と捉えている利用者が多い。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩の途中で立ち話をしたり、法人で借りている近くの畑で野菜を栽培したり、本人の希望を尊重して対応している。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜9：00～朝5：30までは防犯上、施錠をしている。出入り口にはセンサーを取り付けてはいるが、これをあてにしない見守りを心がけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人と連携した訓練は年2回実施している。12月にも予定されており、今回は地震も想定した訓練の予定である。食料の備蓄は2日分を確保している。また備蓄品の入れ替えも行った。消防、婦人防火クラブの協力を頂いている。夜間の避難には応援が不可欠なため、ご近所にも、災害時のお手伝いをお願いしに回る予定である。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック表に水分量、食事量を記入している。全員が普通食で、お粥対応が可能である。定期的に、法人の管理栄養士の指導を受けている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	クリスマスの飾りつけも、大人の洒落た雰囲気のもので、これも全員で手作りされたものである。ホームの行事写真も、大きく引き伸ばされて掲示されてあり、写真の本人も喜んでみている様子であった。カレンダーや時計も利用者の目の高さを意識してかけられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや洗面台は備え付けで、たんす、鏡台、ポータブルトイレ、テレビ、鉢物、孫の写真などが飾られて、個性ある居心地のいい居室になっている。部屋の表札には宮古市の景勝地の名前がつけてある。のれんもなかなか個性的である。		